

## 実践研究

## 小学校体育授業における思索から多様な表現を引き出す手立てに関する実践研究

山崎 正枝<sup>1)</sup> 出嶋 志津子<sup>2)</sup>A Practice Study about Gain to Bring Out Diverse Expression  
through Contemplation on P. E. in Elementary SchoolMasae YAMAZAKI<sup>1)</sup> Shizuko DEJIMA<sup>2)</sup>

## Abstract

This study is to investigate the technique about gain to bring out the diverse expression by the teacher with skilled ballet through contemplation on P.E. in elementary school. Thirty-two children of four grade participated in the expression exercise of four times. The title was "Let's to transform!". Method about investigation was questionnaire, reflection sheet by teacher, and visit in this class. Method of the investigation was the questionnaire, the reflection sheet self-evaluation, and observed this class. At the result by the questionnaire, the data showed that the expression was greatly pleasant, namely 81.3%. It is suggested that learning is effective in the viewpoint that the pleasant experience cultivate the creativity and the expressiveness. Especially, the data showed high evaluation to find out the movement and to try the dynamic movement, namely 90.6%. At the reflection the self-evaluation, the data was the high at the third time, and gained the effort of learn. About dialogue, the data of female showed 88.5%, and there was significant difference between male and female. It was suggested that communicative of female gained advantage. About ingenuity, male were 80.7%. Concretely, it was investigated that dialogue, inquire, evaluation of good movement and model by teacher were the technique to bring out the expression from the diversity movement through the contemplation to gain vigor in this practice study. And it was investigated that this practice study was the effective for the creative self-expression.

Key words : Expression exercise, Good movement, Gain, Dialogue, Evaluation

## I. 緒言

新学習指導要領<sup>9,12)</sup>における「主対的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の視点から、活動を学びに転換させるカリキュラム・マネジメントでの教師の役割は非常に大きい。資質・能力の3要素に掲げられる「知識・技能」の習得、「思考・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養は、「主対的・対話的で深

い学び」を評価する基盤であり、授業で何を理解したかの学習評価、何ができるようになるかの育成、そしてどのように使うのかの学習を充実させることは、総合的に捉えた教育目標の重要な点である。小学校体育では、挑戦的な運動と表現的な運動の二つの要素<sup>7)</sup>を持つが、本研究にて単元を通じた表現的な運動を取り上げて、教師の働き掛けや児童の姿から、これらの要素について検証

1) 金沢大学 人間社会学域学校教育学類非常勤

1) School of Teacher Education, College of Human and School Sciences, Kanazawa University

2) 金沢大学 人間社会学域学校教育学類附属小学校

2) Affiliated Elementary School, the School of Teacher Education, College of Human and Social Science, Kanazawa University

をいたしたい。

松本千代栄<sup>7,8)</sup>は、体育の担うべき役割に、ダンスには“舞踊の教育”と“舞踊による教育”の二つがあると思う、舞踊を経験させることで、舞踊の能力を増し、それ以外にも体力を増し、社会性を養うことができるというように、いろいろな教育的効果を期待した指導が行われているが、舞踊による教育の価値は、いつの時代でも無くなるものではないと述べる。加えて、ダンスの本質から考えれば、そうした創造的な自己表現を体験させていく特性が、他のスポーツと比べて大きく違う点であり、ダンスの総合効果である。良い環境を作り、良い刺激を与えることが、踊りに対して抵抗を持たずに大きくなることを舞踊論業に記載されている。

本研究の実践で取り上げた金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校<sup>4,5,6)</sup>では、教育方針に「進んで学ぶ子ども、やりとおす子ども、みんなのことを考える子ども」を、目指す児童像に掲げている。平成29年度から「よりよい未来を志向する子」を教育目標に、教師が子どもの姿をより具体的にイメージして単元や授業を考えることで子どもが課題や目標に向かって学び続ける原動力へと繋がる成果が紹介され、新たな考えを創り出す力を一人ひとりに付けるために、多様性を活かす環境を設定した効果的な教育活動を研究しながら、新時代「令和」に向けて教育方針の多様性の尊重、協調（協働）する力が唱えられた。研究課題の「未来を志向する子の育成」～未来へ生かす「決める」～<sup>6)</sup>では、考えて、決めて、表現する力を育成して、単元や授業を通してどのような働きかけが有効だったのか、有効な手立ては何なのか、子どもの姿をもとに検証することが掲げられている。そこで、本研究では、ダンスの本質である創造的な自己表現の観点から、表現運動に学び、仲間との関わり、そして挑戦する児童の姿を捉えていく。

従って、本研究の目的は、小学校体育の単元「表現運動」における思索から多様な表現を引き出す手立てにより創造的な自己表現に繋がる実践授業を検証することである。

## Ⅱ. 方法

### 1. 属性

対象者は、小学校4学年の児童32名（男子16名、女子16名）であり、教師はクラス担任（女性、バレエ熟練者）である。授業は、単元「表現運動」の4時間（2019年5月）の実施で、授業場所は、1、2、3時間目が体育館と4時間目がプレイルームである。児童と教師の服装は、授業開始の時点で運動服に素足である。実践研究の主旨については、事前に学校長と担当教師の承諾を得た上で、教師から児童への説明と理解を得た。尚、初日には、授業開始前の体育館での学校長の出迎えがあった。3時間目は、小学校内ブロック研究会が開催され、石川県内小学校教師、学校教育学類の教育実習前の学生の参観もあった。

### 2. 単元のねらい

新学習指導要領に示す小学校中学年の学習内容<sup>12)</sup>は、運動の楽しさや喜びに触れること、題材の特徴を捉えた多様な感じの表現や、即興的に表現する能力やリズムに乗って踊る能力、友達と豊かに関わり合うコミュニケーション能力などを培えることが掲げられ、イメージやリズムの世界に没入して「なりきる」、互いのよさを生かし合い仲間と交流して踊る楽しさに触れることである。

附属小学校の「未来を志向する子の育成」<sup>6)</sup>の体育領域の表現運動のねらいは、具体的に下記のように示されている。

- <1> 題材の特徴を捉えて動く楽しさを知り、様々な動き方を工夫しようと学び続ける子
- <2> 動きを試しながら友達と思いや考えを伝え共有し、多様な動きを考え楽しむ子
- <3> 表現する楽しさや学習の過程を自覚し、運動の多様なかわり方を見つける子

単元「表現運動」授業の学習評価は、次の通りである。

- 《1》身近な生活の題材から多様な感じに差を付けて誇張や変化を付けて踊ることができること（知識・技能）
- 《2》題材の特徴や動きのポイントを知り、考えたことや動きを仲間に伝えようとしたり動きを

取り入れたりしようとする事（思考力・判断力・表現力等）

《3》運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、仲間の動きや考えを認めたりすること（学びに向かう力・人間性等）

教師は、単元のねらいに対する学習の自己評価に振り返りシートを作成した。

### 3. 実践内容

単元名は、表現運動『〇〇にへ～んしん!』、身近な生活の題材をテーマにした学習である。単元の初めに、表現運動の楽しさに触れて、その行い方を知ることや、題材の特徴を捉えた多様な感じの表現の学習を通して、即興的に表現して仲間と関わり合うことが伝えられた。学習の進め方は、「自分で考え、決める、表現すること」、目指す動きは、「全身を使ったダイナミックな動き、指先からつま先まで意識した動き、特徴を捉えてなりきる」の課題である。尚、ダイナミックな動きとはどんな動きかを児童に問い掛け、全身の動きで変化に富んだ多様な動きである説明をして、身体の動きで手本が示された。

毎時の授業のはじまりとおわりは、児童が教師を囲み、聞く姿勢には話し手に目を合わせる事が、学びに向かう態度として確認された。また、教師の『運動での約束ごとは?』の問い掛けに、児童は『ふざけない、恥ずかしくない、笑わない、ひやかさない』を、声を揃えて答えた。運動をするに当たり安全な運動の行い方は、互いが衝突しないよう周囲の状況を確認することが指導された。実践では、手拍子、笛や太鼓の合図が、授業の進行に習慣化されていた。授業のまとめには、グループ発表と意見交換がされた。本時の授業の流れとキーワードがホワイトボードに掲げられ、振り返りで授業が終了した。尚、グループは予め決められていた。

1時間目（C1）のテーマは、『新聞紙にへ～んしん!』である。新聞紙を手足で掴み飛ばして、新聞紙の動きを「真似る」ことが呼び掛けられた。動きを引き出す手立て、新聞紙の落ちてくる様子を問い掛け、児童の動きのイメージに対して、教

師は身体表現で答えながら手本を示した。課題の運動「飛ぶ、回る、走る」が、ダイナミックな動きとなるように高低の対比を付けた動きへと導く声掛けと、言葉と身体の動きによる表現のやり取りが繰り返された。教師は、児童のよい動きを評価してクラスに紹介、どこが良いのか問い掛け評価した上で、身体の部位の動かし方を指導した。



写真1 「新聞紙にへ～んしん!」

2時間目（C2）のテーマは、『ポップコーンにへ～んしん!』である。テーマは、事前に児童に周知され、学校でポップコーン作りの動画を観察する予習があった。先ず、料理の過程が問い掛けられた。料理の手順がホワイトボードで示され、ひとつ区切りで順にコーンの様子を問い、課題の運動「跳ぶ、転がる」が引き出された。「真似る」ことからよい動きには評価を、4人のグルー活動では互いの動きを取り入れて「ひと流れ」の学習を導いた。作品には、ポップコーンに「なりきる」ことを強調、集団での動きでダイナミックさが表現できるヒントが伝えられた。



写真2 「ポップコーンにへ～んしん!」

3時間目（C3）のテーマは、『洗濯物にへ～んしん!』である。事前に学校で動画による洗濯機の観察があり、洗濯物の動く様子が問い掛けられた。課

題の運動は「捻る」を導き、教師は「捻り」の多様な動きの手本を示した。イメージを高める効果音に洗濯機の録音が準備された。本時は8人グループの活動で、話し合いは全員が参加すること、多様な動きを取り上げて、特に表現したい動きを強調する場面を決めること等の作品づくりのヒントが指導された。グループ活動では、ホワイトボードに洗濯機の仕事の流れ、洗濯物の様子、動きを組み合わせ「ひと流れ」にする動きづくりの手法が導かれた。創作時間はタイマー表示され、教師はグループの進行状況の把握や創作のアドバイスやコミュニケーションを取った。まとめでは「する・みる・支える・知る」の関わりができたかの問い掛けがされた。



写真3 「洗濯物にへ～んしん！」

4時間目(C4)のテーマは、『花火にへ～んしん！』と『嵐にへ～んしん！』を掲げ、グループでの選択である。まず、表現したい感じを明確にイメージして、グループでの話し合いでテーマを決めることが指導された。これまでに取り組んだ運動を取り入れて、変化を付けた動きで表現を楽しむことが伝えられた。発表と鑑賞の後、どの動きのどの点がよかったのか感想を伝え合った。単元のまとめは、動き方の工夫を知る楽しさや自分なりの表現ができたかを問い掛けて授業は終了した。



写真4 「花火にへ～んしん！」

## 4. 検証データ

### 1) アンケート調査

単元を通した学びを検証するために、アンケート調査を作成した。

小学校学習指導要領体育編に示される中学年の目標や内容を基に、表現運動、授業、そして動きに関する3区分8項目で、表現運動に学び、仲間との関わり、そして挑戦する児童の姿を捉える質問である。〈表現運動〉では、単元「表現運動」の楽しさに触れ、安全な行い方を知ることが挙げた。〈授業〉には、題材の特徴を捉える学習、友達と豊かに関わり合うコミュニケーション能力を培う、課題を見付け解決の方法や活動を工夫する、そして仲間との関わる姿を質問した。〈動き〉では、全身でダイナミックな動きができたか、「なりきる」ことができたかを問い、全身での表現に指先やつま先までの意識を項目に掲げた。これらは目指す動きであり、挑戦する姿を示す項目である。回答には、児童に無理のないよう5段階の該当の数字に○印を付ける方法とした(5.たいへんよくできた、4.よくできた、3.できた、2.あまりできなかった、1.できなかった)。(資料1)

尚、アンケート調査には目的を明記、教師の了解を得た上で、単元の最終時に教師による説明と配布、回収を依頼した。また授業4時間を映像に記録して資料とする承諾を得た。

### 2) 振り返りシート

教師は、学びの把握と児童の振り返りに『「へ～んしん！」シート』(以下、振り返りシート)を作成した。

体育授業の次の授業の最初5分間を振り返りシート記入の時間に当て、児童はその場で提出した。振り返りシートの内容は、単元「表現運動」の学習評価に沿い、教師が児童に身に付けて貰いたい7項目である。3つの自己評価の中から、該当の評価を一つ選択する(◎よくできた、○できた、△つぎがんばる)。自由記述欄には、附属小学校が「未来を志向する子の育成」に掲げる体育領域のねらいに基づき「考え、決める、表現する力」を培う視点から、学んだことや分かったこと



(L : learning)、友達の動きや意見で良いと思ったこと (F : friend)、これからやってみみたいこと (T : try) の3枠が設けられた。(資料2)

資料1 アンケート調査

「〇〇にへ～んしん！」

にへん～んしん！

組 番 名 前( )

～いろいろな動きや表情を生み出してなれないものにもなれるかな～

ふりかえり 【よくできた○ できた○ つぎがんばる△】

① 全身を使ってダイナミックに動けましたか	
② 表情までつけて動くことができましたか	
③ 指先からつま先まで体を意識して動くことができましたか	
④ 動きを工夫することができましたか	
⑤ 友達と関わりながら動くことができましたか	
⑥ 友達に動きや考えを伝えることができましたか	
⑦ 友達の動きを取り入れることができましたか	

L (分かったこと)	F (友達の動きや意見で良いと思ったこと)
T (これからやってみみたいこと、感じたこと)	

資料2 振り返りシート

アンケート調査のお願い

小学 4年生 組 授業日 5月7、8、9、10日

単元 「表現：〇〇にへ～んしん！」

🍀 みなさんにたずねます。 教えてください。

<表現運動>

1) 表現の運動は楽しかったですか？ 5 4 3 2 1

2) まわりに気をつけて動きましたか？ 5 4 3 2 1

<授 業>

1) 特徴を捉えて動くことができた 5 4 3 2 1

2) 考えた動きをお友達に伝えようとした 5 4 3 2 1

3) お友達と仲よく踊り動きを見つけた 5 4 3 2 1

<動 き>

1) 「全身をつかったダイナミックな動き」 5 4 3 2 1

2) 「指先からつま先まで意識した動き」 5 4 3 2 1

3) 「なりきっている動き」 5 4 3 2 1

\*数字に○をつけてください。

(5. たいへんよくできた 4. よくできた 3 できた 2 あまりできなかつた 1. できなかった)

.....

附属小学校 表現授業 授業担当先生

アンケート調査の目的は、小学校体育科ダンス領域の表現運動の効果について、単元「表現運動」を通して児童の評価を基に検証いたしたくお願い致します。 研究者：

5. 統計処理

アンケート調査は、教育評価にノンパラメトリック検定を使用した。学習の状況を把握するために5段階評価の人数を調べて度数に関する適合度の検定を行った ( $p < .05$ )。また、5段階評価の5と4評価を高評価としてグループ化、男女別の人数と割合を算出した。

振り返りシートは、自己評価の可視化に授業4

時間における◎印、○印、△印の記入印を点数化(◎印3点、○印2点、△印1点)、また3つの自己評価の人数の割合を算出した。◎印に焦点を当て、7項目別に独立性の検定のカイ二乗値を算出して男女の有意差を調べた ( $p < .05$ )。自由記述は文字による自己表現の視点から、動きの7項目に沿う記述を選定しアルゴリズム化で分析した。

表1 アンケート調査の結果

調査項目	男子 (n=16)						女子 (n=16)						高評価 (5,4) の割合		
	5	4	3	2	1	適合度	5	4	3	2	1	適合度	男子	女子	全体
<表現運動> 1) 表現の動きは楽しかったですか?	13	0	2	0	1	*	13	0	2	1	0	*	81.3	81.3	81.3
2) まわりに気を付けて動きましたか?	10	4	1	1	0	*	8	5	3	0	0	*	87.5	81.3	84.4
<授業> 1) 特徴を捉えて動くことができた	6	6	3	1	0	*	9	5	1	1	0	*	75.0	87.5	81.3
2) 考えた動きをお友達に伝えようとした	8	3	3	1	1	*	9	2	3	2	0	*	68.8	68.8	68.8
3) お友達と仲良く踊り動きを見つけた	13	2	0	1	0	*	11	3	1	1	0	*	93.8	87.5	90.6
<動き> 1) 「全身をつかったダイナミックな動き」	10	5	1	0	0	*	10	4	2	0	0	*	93.8	87.5	90.6
2) 「指先からつま先まで意識した動き」	7	4	2	3	0		9	3	4	0	0	*	68.8	75.0	71.9
3) 「なりきっている動き」	11	3	1	1	0	*	11	3	2	0	0	*	87.5	87.5	87.5
計 (人)	78	27	13	8	2		80	25	18	5	0		M 82.0	82.0	82.0
(%)	82.0	10.2	7.8				82.0	14.1	3.9				SD 10.26	7.04	8.14
	unit						unit						$(p < .05)$		

Ⅲ. 結果

1. アンケート調査の結果

表1は、アンケート調査の結果である。各項目の5段階評価の人数の独立性の度数に関する適合度の検定では、女子は全ての8項目に、男子は7項目に度数に有意性が認められた。男子の「指先からつま先まで意識した動き」には、有意な差は認められなかった。「5」と「4」に焦点を当て、どの項目が高評価であるか調べた。結果、全体での高評価の割合は男女共に82.0%を示した。<表現運動>に関して、1) 楽しかったかについては男女共に81.3%、2) まわりに気を付けたかには、男子が87.5%と女子が81.3%にて全体で84.4%が高

評価した。<授業>に関して、1) 特徴を捉えて動くことができたには男子75.0%と女子87.5%の81.3%が高評価を、2) 考えた動きを伝えたかでは男女ともに68.8%、3) 動きを見つけることに男子93.8%と女子87.5%の90.6%が高評価をした。<動き>に関して、1) 「全身を使ったダイナミックな動き」では、男子93.8%と女子87.5%の90.6%、2) 「指先からつま先まで意識した動き」には、男子68.8%と女子75.0%の71.9%、3) 「なりきっている動き」には男女共に87.5%が高評価をした。尚、アンケート調査の回収と回答率については、100%である。

## 2. 振り返りシートの結果

### 1) 単元「表現運動」の振り返りでの自己評価

表2は、単元の4時間の振り返りシート回答数と、記入印の点数化にて7項目満点21点の平均点である。結果は、男子の場合はC1 < C2 < C3に、C3が20.6点を示し、単元を通した平均点は19.0点である。女子の場合はC1 < C2に

表2 授業の学習評価の結果  
(振り返りシートでの自己評価の平均点数)

	C1	C2	C3	C4	計	点数
男子(回答数)	15	15	11	16	57	
M	16.7	19.6	20.6	19.3		19.0/21点
女子(回答数)	16	16	13	16	61	
M	17.9	19.4	19.2	18.7		18.8/21点

### 2) ◎よくできた評価について

表4は、◎印評価の7項目別の割合である。授業を通した◎印評価は、男子が65.7%と女子が71.7%、全体では68.8%であった。男女の比較にカイ二乗値は9.26を算出、女子の場合の有意性が認められた。男女を項目別に比較、7項目中6項目で女子が◎印評価が多かった。特に⑤友達との関わりには、男子の75.4%と女子の88.5%にてカイ二乗値は6.31を示した。⑦友達の意見や動きを取り入れることに関しては、男子の66.7%と女子の80.3%にてカイ二乗値は5.76を示した。

て、C2が19.4点で高い評価と平均点は18.8点である。表3は、3つの自己評価の割合を算出した。男子では、◎印を記入したのは65.7%、○印は25.6%、△印は8.8%であり。女子では、◎印は71.7%、○印は25.1%、△印は3.3%であった。全体では、◎印が68.8%、○印が25.3%、△印が5.9%であった。

表3 単元「表現運動」での自己評価の割合 (%)

区分	◎よくできた	○できた	△次頑張る
男子	65.7	25.6	8.8
女子	71.7	25.1	3.3
全体	68.8	25.3	5.9
	focus		

③手足先の意識したことでは、男子が54.4%と女子が67.2%にてカイ二乗値は4.61であった。以上、③⑤⑦について、女子が◎よくできたことへの自己評価が男子に比べて有意に高かった。男子の場合は、⑥友達に伝えようとしたことに関しては64.9%を示し、女子の59.0%より高い結果であった。とりわけ、最も高かったのは、男子が④工夫したことに80.7%、女子が⑤友達との関わりに88.5%であった。最も低い項目は、②表情に関する学習であり、男子が43.9%と女子が47.5%で、全体では45.8%の結果であった。

表4 振り返りにおいて自己評価◎印の児童に焦点を当てた男女項目別の割

項 目	◎印の児童			独立性の検定	
	男子	女子	全体		カイ二乗値
① ダイナミックな動き	73.7	77.0	75.4		
② 表情	43.9	47.5	45.8		
③ 手足先の意識	54.4	67.2	61.0	*	4.61
④ 工夫	80.7	82.0	81.4		
⑤ 友達との関わり	75.4	88.5	82.2	*	6.31
⑥ 友達に伝える	64.9	59.0	61.9		
⑦ 友達の意見や動きを取り入れる	66.7	80.3	73.7	*	5.76
全 体	65.7	71.7	68.8	*	9.26

(p<.05)

3) 振り返りシートの感想からの確認 (gain)

表5には、振り返りシートのL、F、T欄の自由記述を授業時間毎にまとめて表記した。表6は、単元で身に付ける7項目に関する内容をキーワードに捉えて記載したかの選定による確認数を

まとめた。結果、④“工夫したことに関してL、F、T欄での記述が男女共に多く、全体で131件の52%を占めた。次は、男女共に①”ダイナミックな動きに関する記述が多かった。

表5-1 振り返りシートの児童の言葉 (1時間目)

❖1時間目 (C1)「新聞紙にへ～んしん！」

L	F
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体でなんでも表現できると思った</li> <li>・ 同じことを表現しても違うことがわかった</li> <li>・ 体をいろいろ動かすと楽しいことがわかった</li> <li>・ ダイナミックに動くときすぐ見えた</li> <li>・ ねじる時は足も手も曲げるといい</li> <li>・ 体を大きく動かすと足も手も伸ばしたりできる</li> <li>・ 全身を使ったら風で揺れ散るところも動けた</li> <li>・ 人間は新聞紙みたいに破れない、動きをつければいいとわかった</li> <li>・ 新聞になったときふわっとしたこと感じられた</li> <li>・ 動きが同じでも大きさをかえることでいろいろわかる</li> <li>・ 思いきりジャンプすると伝わりやすい</li> <li>・ 声を使うともっと伝わる</li> <li>・ ダイナミックに動くと、つま先や指が動かない</li> <li>・ 新聞紙をふわっとはやりやすいが、しばったり破ったりは難しい</li> <li>・ 表現は楽しいが難しい、新聞を動かす人も踊る人も個性があるから</li> <li>・ 出来ない動きもたくさんある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ○○さんは、・・・</li> <li>・ 回転の時、お尻だけ浮かせて回っていた</li> <li>・ 寝転がったり、ハチャメチャでダイナミックで面白い</li> <li>・ 浮いているように膝を曲げていてわかりやすい</li> <li>・ 足を上にあげたり、手だけで動くのがすごい</li> <li>・ 手や足を伸ばし揃えたりしていた 指先がピンと伸びていた</li> <li>・ 全身を使って、指先も使って、表情もすごい</li> <li>・ ちゃんと痛みを声に出しているのがいいと思った</li> <li>・ 動きを激しくするのに足を挙げたのがすごい</li> <li>・ 表情を使って丸まり、つま先で表現する人がいた</li> <li>・ つま先を使っている人がいた、指先からつま先までの意識がすごい</li> <li>・ 上に投げるときも体を全部使い、細かく本物みたい</li> <li>・ 止まる時、わざわざ四つばいになっていい</li> <li>・ バサバサとする時、向きを合わせる動きがいい</li> <li>・ 足を上に伸ばして、横にしても横に伸ばすのがすごかった</li> <li>・ 転がるとき新聞紙のように長くなって転がっていた</li> <li>・ 体が新聞と同じ向きを向いて本当に新聞紙みたいになりすごい</li> <li>・ 新聞紙が破けると、帽子も投げてダイナミックだった</li> <li>・ 新聞紙を置く時、声や表情が置く感じだった</li> <li>・ 新聞紙を振る手足首はあまり見えなかったが曲げていたのがすごい</li> <li>・ 新聞を折りたむのが面白い</li> <li>・ 上手い人は表情も体も動きについていた</li> <li>・ とても激しくよかった、顔も表現して上手だった</li> <li>・ 表情と声がすごくミックスしていた</li> </ul>
<p style="text-align: center;">T</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっともっと全身を動かすこと</li> <li>・ もっと表情をつけたい</li> <li>・ つま先をのばせなかったので次は意識する</li> <li>・ 声になってみたい</li> </ul> <p>&lt;表現したいこと&gt;</p> <p>袋、リュック、かばん、椅子、本、雑巾 飛行機、電車、時計、アルミホイール 動物、虫、石</p>	

表5-2 振り返りシートの児童の言葉 (2時間目)

❖2時間目 (C2)「ポップコーンにへ～んしん！」

L	F
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダイナミックにすると、分かり易いし面白い</li> <li>・ ジャンプが10種類以上あることがわかった</li> <li>・ ジャンプの後に後ろに転がるのが面白い</li> <li>・ 全身を丸めてからジャンプすると、大きくできて面白い</li> <li>・ 小さく円になって、パンで後ろに下がる工夫した</li> <li>・ だんだんと回る速さをあげた</li> <li>・ 少しずつ組になり、離れて飛ぶとコーンらしい</li> <li>・ パンとなるところで、ぐるぐる回った</li> <li>・ ジャンプするとポップコーンみたいになれる</li> <li>・ 特徴をあわらすと、より分かり易い</li> <li>・ 体をいっぱい動かせば楽しい</li> <li>・ 表情をつけてやると気持ちが相手に伝わる</li> <li>・ ポップコーンがこんなに激しいのがわかった</li> <li>・ グループで動いたほうが楽しいことがわかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ○○さんは、・・・</li> <li>・ はじけた後に転んだりした</li> <li>・ 手と足をバタバタして表情もあつそうにしていた</li> <li>・ 片手で体を支えるのがいい</li> <li>・ 横にスライド、ジャンプしているのがいい</li> <li>・ 回転くるくるしながら、ジャンプしていた</li> <li>・ 手だけを地面につけて、ジャンプしていた</li> <li>・ ○○さんが一番大きく体を動かしていた</li> <li>・ とてもダイナミックでポップコーンになりきれていた</li> <li>・ パンと飛んだあと、ぐるぐる回る意見がいい</li> </ul> <p>▶ グループは、・・・</p> <p>A ・ 集まった後、はじけながら転がっていた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パンと速くまで飛んだり、高く飛んだりがいい</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火を入れてはじける時は、回って飛んだり友とくっつき後ろに飛んだ</li> <li>・ 友だちのを取り入れると、そこからオリジナルがうまれる</li> <li>・ 友達と協力すると、とても表情が付く</li> <li>・ 皆で広がると、ふわふわと膨らむ表現ができた</li> <li>・ 順番に飛ぶのに、列で男女一人づつとんだ</li> <li>・ 飛ぶの難しい</li> <li>・ 火が入りコーンに空気が入りはじける時、熱いコーンの気持ちを感じた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B ・ 女子はぐるぐる回り、男子はその周りをぐるぐる走っていたのがいい</li> <li>・ 肩組 2つのともろこしがポップコーンになるように感じた</li> <li>・ 2人組での動きの息がピッタリ、とても大きく動きよかった</li> <li>・ まとまり散らばる、飛んでいくのがいい</li> <li>C ・ スピンして男女に分かれ、最後なコーンのようにになっていた</li> <li>・ 丸まってダイナミックでコーンらしくまわっていた</li> <li>・ はじけた後に手を繋ぎ、2つに分かれてまわっていた。</li> <li>D ・ ひとりずつはじめていくのが、とてもよく面白かった</li> <li>・ パーンが一番大きな音の時、足を挙げていた</li> </ul>
T	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっと激しい動きを探したい</li> <li>・ グループで集まって飛ぶ動き</li> <li>・ ダイナミックに動いて細くなる動き</li> <li>・ パーンを大きめに飛び、手足を伸ばし面白くかっこよくしたい</li> <li>・ グループ全員では息を合わせたい、もっと声をだしたらいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全体の動きは、・・・</li> <li>・ 動き方に決まりがない</li> <li>・ 集まってそこからはじけること</li> <li>・ ふわふわとなる時は、皆が離れていく</li> <li>・ 回転しなふがらポップコーンになるのがいい</li> <li>・ 皆で組合わさっているとよかった</li> </ul>
<p>&lt;表現したいこと&gt;</p> <p>ご飯の炊く様子、桃、水 かばん、鉛筆、旗、円、ロボット、電車、飛行機 動物、犬、猫、カエル、ダンゴ虫</p>	

表 5-3 振り返りシートの児童の言葉（3時間目）

❖ 3 時間目 (C3) 「洗濯物にへ～んしん！」

L	F
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな方向に回ると洗濯物に見える</li> <li>・ 指先や手を捻る動きをすると、絞る動きができる</li> <li>・ からまった洗濯物ができた</li> <li>・ できるだけ体を捻ることをした</li> <li>・ 洗う動きに回り、反対回りを交互にやるといい</li> <li>・ 反対回りでは洗濯物に成り切れる</li> <li>・ 回るのが速いのとゆっくりのがあった</li> <li>・ 皆で一緒にすると洗濯物らしくなる</li> <li>・ 大きく速く回ると本当の洗濯物みたい</li> <li>・ 洗濯物がぐるぐる回ると、前回り後ろ回りがいいとわかった</li> <li>・ 2つに分かれて洗濯物と洗濯機もいいと思った</li> <li>・ 皆で手をつなぐとバスタオルを洗濯したみたいに表現できた</li> <li>・ みんなで案を出し合ったら楽しい</li> <li>・ 工夫したのは、皆で手を繋ぎねるところ</li> <li>・ 皆で手をつなぐとキレイになった</li> <li>・ 皆でやったことがいい</li> <li>・ 全ての工程で絡まったり速く回ったり、他の班の反対回りを取り入れた</li> <li>・ ルールを守って表現すると楽しい</li> <li>・ 先生がたくさんで緊張したが、グループで楽しくできた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ○○さんは、・・・</li> <li>・ 体を友達と一緒にねじっていた</li> <li>・ 脱水の捻りがすごかった</li> <li>・ ねじったり工夫がよかった</li> <li>・ 絞る時は手足をねじっていた、しかも動くときねじったまま動いていた</li> <li>▶ グループは、・・・</li> <li>A ・ 2つのかたまりから1つになり、反対に回ったのがいい</li> <li>・ わかれてまた一緒になることがよい</li> <li>・ 洗濯物をしぼる時、全身を思いきりねじっていた</li> <li>B ・ いろいろな動きができてよかった</li> <li>・ 最初は男が真ん中に、回ると女子が真ん中になり面白い</li> <li>・ 順番にぐるぐると回っている動き</li> <li>・ 男女一緒に動くところ、女子だけ、男子だけとあったのがいいな</li> <li>・ 男子が回る女子中で、女子が回る男子中、みんなで回る工夫</li> <li>C ・ 2人1組から全員ひとつになる</li> <li>D ・ 右回り、左回り、交互がいい</li> <li>・ 手をつなぎながら回っていた</li> <li>・ 手をつなぎ皆で回るとは、少し絡まったバスタオルを意識したのかな</li> </ul>
T	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆でもっと体を動かす</li> <li>・ もっと友達の動きをまねて、いい動きをしたい</li> <li>・ ダイナミックの上のフルパワーダイナミックな動き</li> <li>・ もっと指先から足先まで意識してできたらいいな</li> <li>・ おなじことができること</li> <li>・ 伝えることを頑張りたい</li> <li>・ 友達が一せいにジャンプしていたので、次はやってみたい</li> </ul> <p>&lt;表現したいこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子レンジ、お皿、ソーセージ、稲が育つまで</li> <li>・ 動物、こいのぼり、風鈴、ピアノ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全体の動きは、・・・</li> <li>・ 洗濯物を洗ったあとに、小さく丸まったり手足をひねるのが面白い</li> <li>・ すすぎや脱水の時の足も動いていた</li> <li>・ 洗濯物を洗うのに男女でわかれて、あとでくっついた工夫があった</li> <li>・ 男子で手をつないでぐるぐる回り、女子が2人で手をグングン回る動きがすごい</li> <li>・ 男女別に、女子の回る中に男子がまわっているのがすごい</li> <li>・ とても楽しそう</li> <li>・ 干すときは体を折り曲げたらいい</li> <li>・ ぐるぐる回る意見がいい</li> </ul>

表5-4 振り返りシートの児童の言葉（4時間目）

❖4時間目（C4）「花火・嵐にへ～んしん！」

L	F
<p>「花火にへ～んしん！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 皆であわせたらよくなった、皆で動くときダイナミックになる</li> <li>・ バーンと広がると、本当に上がっているみたい</li> <li>・ 指先を使うときダイナで面白い動きできる</li> <li>・ 自分が真ん中に入り、あとの3人が回るところを工夫した</li> <li>・ どんな動きにも特徴があること</li> <li>・ 表情までつけるとよくなる</li> <li>・ 人間もダイナミックに動くと本物の花火みたいになる</li> <li>・ バーンと大きく散るのに手足の先まで伸ばし飛び上がると大きくできた</li> <li>・ 花火は一緒にすると伝わる</li> <li>・ 花火の表し方を変えると表現には、より色変っているように感じた</li> </ul> <p>「嵐にへ～んしん！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大きい動きは回ったり走ったりが大きく感じる</li> <li>・ 起きることを考えて回るとダイナミックになる</li> <li>・ ダイナミックな動きは嵐の激しさが伝わる</li> <li>・ 嵐は順番に表現して皆でよかった</li> <li>・ 反対に回るとより嵐っぽくなる</li> <li>・ 嵐は竜巻や大きな波なので、指先を使って動くとき凄いいことが分かった</li> <li>・ 音が無くても伝わる</li> <li>・ グループのみんなであまくいったことがよかった</li> <li>・ 嵐の表現がとても楽しかった</li> <li>・ 嵐の変身はけっこう難しい、激しい動きは疲れる</li> </ul>	<p>▶ ○○さんは、・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ○○さんが□□さん達に飛ばされるのが3対1だったこと</li> <li>・ くるくると回りダイナミックが最高にいい</li> <li>・ ごろんごろんと全体を使い大きな動きだった</li> <li>・ ○○さん一人が中心にいて、回りがぐるぐる回るのが凄いい</li> <li>・ 順番に飛んだり回ったり、ダイナミックに動きたい</li> <li>・ 皆ダイナミックで細かい動きも多く分かり易い、4回すべて楽しかった</li> <li>・ 鬼ごっこみたいにやればいいの意見がよかった</li> </ul> <p>▶ グループは、・・・</p> <p>A兄 ・ 最後に皆集まって大きなはなびがドン！ 表現がいい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなでよかった</li> <li>・ 花火の動き、声も出してよかった</li> </ul> <p>A弟 ・ ぱっと広がっている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花火の後ろに落ちるものを表現していた</li> </ul> <p>B ・ 一人ひとりの動きがかわっていた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダイナミックだった</li> </ul> <p>B弟 ・ 嵐がダイナミックで本当の嵐に見えた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嵐、風や物の動きができていた</li> </ul> <p>C ・ 一人の建物をみんなで吹き飛ばしていた</p> <p>D兄 ・ どんどん後ろに飛んで動きがいい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダイナミックに動いていた</li> </ul> <p>D弟 ・ 3対1の新しい組み合わせがいい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嵐の激しいように花火の動きを取り入れてあり、激しいように伝わった</li> <li>・ 嵐でまわったものが倒れた音も表現してよかった</li> </ul> <p>▶ 全体の動きは、・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人ひとりがバーンと広がって花火の色が個性的</li> <li>・ 最後の大きなジャンプの後飛び散るのがよかった</li> <li>・ ぐるぐるまわると本物みたいでいい</li> <li>・ 嵐の人は回り、真ん中に一人回っていて面白い</li> <li>・ キーワードを使っている人がよかった</li> <li>・ なんでも表現できる</li> <li>・ 皆で協力で合わせるとダイナミックだった</li> </ul>
T	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表情をつけて、友の動きを取り入れたい</li> <li>・ もっと早く考えをまとめて動く</li> <li>・ もっと難しい表現したい、誰もできないようなもの</li> <li>・ クラス全体で嵐を表現してみたい</li> <li>・ この勉強を通してこれからもダイナミックに動きたい</li> <li>・ 5年になったら、今よりもっとダイナミックに体全部使って動く</li> <li>・ 表現は今までの中で一番大きくできた</li> </ul> <p>&lt;表現したいこと&gt;</p> <p>動物、飛行機、風、お湯、木、家にあるいろいろな物 東日本大震災</p>	

表6 振り返りシートの内容からの選定による確認（gain）

分類の項目	L	F	T	gainの合計
①” ダイナミックな動きに関連したこと	16	17	5	38
②” 表情について	4	12	1	17
③” 手足先への意識について	5	8	4	17
④” 工夫したこと	52	69	10	131
⑤” 友達との関わったこと	11	21	4	36
⑥” 友達に伝えたこと	2	0	1	3
⑦” 友達の意見や動きを取り入れること	6	1	2	9

## IV. 考察

### 1. アンケート調査から見た学びの成果

#### 1) <表現運動>での楽しさに触れた授業

運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知ることが、新学習指導要領における体育科の目標に示される重要な内容である。全体で高評価をした割合について、1) 表現の動きが楽しかったかの質問での81.3%、2) まわりに気を付けて動いたかの質問での84.4%の結果は、楽しさに触れることができた成果と考える。松本<sup>7,8)</sup>は、人は表現して達成感を持つことを伝えている。よい環境を作り、よい刺激を与えることが、踊りに対して抵抗を持たずに大きくなることを伝えている。この視点から、授業での楽しい経験により満足感を得たことは、表現運動に対する興味を高めたと考える。何より教師がバレエ熟練者であることは、よい環境やよい刺激であり、踊りに対する興味を湧かせた大きな要因になったと思われる。楽しい経験は主体的で活気<sup>14,16)</sup>があり、安全に行うことを知ることは学びへの自信となり楽しい授業の要と考える。男子の場合、2) まわりに気を付けて動いたことには87.5%が高評価をした。授業の状況は、男子が周囲に声掛けながら動き、衝突を避ける状況が幾度か見られた。特に空間を広く使う弾けた表現では、夢中になり仲間との接触の危険も予想され、教師が課題の運動を指導する度に一人ひとりの様子に目を配り、互いに声掛け合うことを見付け出してくれる丁寧な指導は、安全安心の楽しい学習であつたと思われる。従って、単元「表現運動」の楽しさに触れて、その行い方を知ることができた授業であつたと示唆する。

#### 2) <授業>の課題に仲間との関わる実践

単元「表現運動」の目標に掲げられた題材の特徴を捉えて表したい感じを動きで表現することは、表現の醍醐味である。仲間と関わり合うコミュニケーション能力を培うことや、課題を見付け解決の方法や活動を工夫するとの目標に向かい学び合う姿は、思考力、判断力、表現力等の育成を可視化できる。従って、課題の特徴を捉え、仲間との関わり、そして発見問題解決学習の在り様を質

問した。結果、1) 特徴を捉えて動くことができたには、全体の高評価の割合は81.3%を得た。女子の87.5%には、特徴を捉えて踊ることを得意とする特性や踊りに対する興味が示唆される。2) 考えた動きを伝えようとしたことでは、男女共に68.8%であった。考えた動きを仲間に伝えるには、多様な動きを身に付けて、思考を凝らすことや工夫する思考力・判断力・表現力が必要となり、その先に認知プログラムとして演技ができると考える。内的なイメージを動きに変えて表現で伝えることは、即興の表現の難しさであり、また難しさが良い刺激となり楽しむ経験は、次回の学習の意欲や挑戦に繋がると思われる。とりわけ、「1」評価の児童は、自由記述には『つま先立ちをしている人がいた』、『何でも表現できる』との発見や、『誰にもできないようなものを表現したい』との意欲や挑戦したい思いを書いている。よい動きを見つめる探究心や多様な表現を拡げたいとの感想は、学習に主体的に向き合う姿であり、教師の誰一人取り残さない指導は児童に伝わっていると思われ、教育の効果と示唆する。3) 友達と仲良く踊り動きを見つけたことでは、全体の高評価の割合は90.6%の結果を得た。男子の93.8%と女子の87.5%には、女子の動きを男子が受け入れて、楽しく真似ることで動きを見付けたと評価したと推測する。動きを見つけて取り入れることは自己を拡充する力を身に付け、仲間を認めることから社会性が培われると考え表現運動の効果を示唆する。授業の状況は、男子がイメージを表現することを楽しみ、女子が得意に特徴を捉えて表現する様子が見られた。

ロンドン大学<sup>11)</sup>にて、学びたいことと学習内容が一致することが重要だとの研究報告がある。題名「○○にへ～んしん!」は、児童には興味深く、身近な生活の題材を取り上げることでイメージが伝わり仲間と協調する活動が拡がる学習となったことを推察する。「真似る」ことで動き方が理解でき、できるようになることは主体的な学びとなる。教師と児童、児童の互いの言葉と動きの対話的な活動を通して認知する学習は、活動が学びに転換された主体的・対話的な深い学びを導く実践

であったと示唆する。本授業は、表現の醍醐味を学び、活気あるアクティブラーニング<sup>1)</sup>の実践であったと考える。

### 3) 目指す<動き>の習得の学習

単元「表現運動」の目指す動きの3点を調査した。1)「全身を使ってダイナミックな動き」では、男女共に高評価をした割合が最も高く、男子は93.8%、女子は87.5%で、全体では90.6%の結果であった。課題の「跳ぶ」「回る」「捻る」運動を十分に取り入れる努力をしたと思われる。教師は、ダイナミックな動きには、手足先を伸ばすヒントを示し、考えながら動く指導をした。『両手を挙げるよ、天井まで伸ばして、高く跳び上がるよ、強く動くよ』は、どのように運動するのか、連続した動きの指導が動きを引き出していたように思われる。教師の声掛けは非常にテンポが速いと思われるも、児童は耳を傾け、教師の動きに視線を向けていた。授業では、全身で動いたことで汗を流す児童も多く、運動量での満足にダイナミックな動きとして自己評価したと考える。2)「指先からつま先まで意識した動き」では、全体の高評価の割合は71.9%であった。男子の68.8%では手足先を意識することを得意とせず、女子の75.0%では教師の手本による特徴を捉えた美しい動きに興味を持ったことが推測される。バイオメカニクス<sup>2)</sup>の観点にて、美しい動きは無駄のない効率のよい動きであり、“舞踊による教育”であり、また未来への“舞踊の教育”のよい刺激となることが示唆された。3)「なりきっている動き」では、男女共に高評価の割合は87.5%を示し、課題に努力した達成感が推測される。単元を通しての教師の『よい動きとはどんな動き?』の問い掛けは、イメージを膨らませて次々と多様な動きを導き、発想から動きで伝える手解きとして非常に効果のある問い掛けであったと示唆する。

授業での効果的な声掛けと思われる事項を下記に示す。

C1では、新聞紙を使うことでイメージが分かり、真似ることから「なりきる」ことに導く手解

きが示された。『大きな動きは、どれくらい?』は、全身での大きな動きには指先やつま先を意識するヒントを示し、互いに掛け合う効果では、羞恥心は見られなかった。

C2では、ポップコーンが好きである児童の反応から、「跳ぶ」「回る」の運動には『どんなジャンプがある?』の問い掛けに、『ジャンプを見つけた』と身体で表現する児童の様子は、無理なく運動技術の習得ができると思われた。激しい動きを引き出すことでは『もっと大きく』、『集まって飛ぶよ』、『手足を伸ばして』の声掛けが繰り返された。動き方が分かる指導には、『ポンポン跳んで』、『ポーンとぶつかって転がる』、『フワフワと広がる』のオノマトペが活用された。特に、『動いて止まる』での『グループ全員で息を合わせた』の児童の発言は、表現をよりよく楽しみたい学習に向かう態度が示された。『互いに見合うよ』『一緒に、順番に、反対に、つながって』は、仲間と協調する手立てであり、多様な動きや表現が広がる声掛けと思われた。

C3では、『洗濯機の中の様子はどんな感じ?』の発問から、『Tシャツになろう』はウォームアップとして活発に動く様子が見られた。児童は、「回る」運動には右回りと左回りや速さの変化があることや、「捻る」運動では洗濯物が捻じられるも絡まらない動きの発見があった。洗濯物が仕上がる工程には〔洗濯機に入れる→注水→洗う→脱水→洗濯機から出す→干す〕の手順を記したボードを活用して、ひと流れの動きを構成する手立てが示された。



写真5 グループの話し合いに指導の様子



C4では、花火、嵐のテーマは、「跳ぶ」「回る」「捻る」「群れ」の多様な動きを引き出すことができる。激しい動きに興味を示す児童は、『ダイナミックに動くほど激しさが伝わる』、『順番に跳ぶ』、『一緒に回る』、『変化を付けると面白い』との活潑な呼びかけが示された。イメージを動きで自由に表現することが習慣化され、声や音に耳を傾けた自己表現は、表現しなければならないでなく、表現している児童が観察された。テーマから多様な表現を引き出す手立ては、創造的な自己表現に繋がる実践であったことが示唆される。

## 2. 振り返りシートから見えた授業の成果

振り返りシートに具体的な目標を示した何ができるようになったのかを、児童の自己評価から学びを検証する手立ては重要と考える。4項目①②③④は動きに関すること、3項目⑤⑥⑦は仲間との関わりに関する内容である。主体的な活動を①②③④に、対話的な活動を⑤⑥⑦で問い掛け、特に⑥⑦は学びを深める評価に掲げられたと思われる。尚、自己評価には「×できなかった」はなく、教師の学ばせたい項目を達成させる戦略と思われる。結果、C1、C2、C3の学習を重ねるごとに自己評価は高く学習の成果がわかった。C1では目指す動きと表現運動の取り組み方を、C2では「ひと流れ」の動きを、C3では話し合いが「ひとまとまり」に、よい動きを評価し合い仲間と関わりを深める学習が導かれた。C3の小学校内ブロック研究会では男子の活躍が見られた。C4の単元まとめでは意見交換の時間が多く設定された。単元を通して、「◎よくできた」には、男子65.5%と女子71.7%の比較により、女子の有意性が認められた。このクラスの女子がダンスに興味を持ち得意としたことを示唆する。「○できた」と答えたのは、男子が25.6%と女子が25.1%の回答である。できるようになったことを自覚できたことで、縦断的な学習として高学年へ繋がると思われた。

尚、教師の教育方針は、男女問わず共に表現運動に親しむ児童像である。

### 1) よい動きの評価

結果、女子が①②③の動きの表現に関する項目に◎印を多く記入しており、特に③手足先への意識には、女子が男子に比べて有意に多くよくできたことを評価している。このことは、手足先への美しい表現の興味が優位である特性が示されたことを示唆する。手本となる教師の美しい動きを真似ることを心掛けたと思われる。②表情に関する自己評価は男女共に低く、単元を通しての45.8%は、動くことに精一杯で意識までに至らなかったものと推測する。④工夫の自己評価には、男子の80.7%が◎印の評価している。考えて動きを決める学習で優位に立ち、自分の動きや仲間の動きを肯定的に受け止めて努力したことを推測できる。とりわけ、男子は即興的に表現する能力が優位に立つことが示唆される。

よい動きを価値付けることは、自分と運動との多様な関わり方を見つける手引きと考える。教師が目標とする授業は、男女差なく表現運動に親しむことを掲げているが、互いの意見や動きを取り入れた認め合う特性は、男女の優位な活動で相互にリカバリーされて、一人ひとりが授業の中で創造的な自己表現ができたことと示唆する。

ISADORA<sup>3)</sup>は、身体教育の基礎ありきを語る。Gymnastics must be the basis of all physical education; it is necessary to give the body plenty of air and light; it is essential to direct its development methodically. It is necessary to draw out all vital forces of the body towards its fullest development. That is the duty of the professor of gymnastics. After that comes the dance. (ISADORA, 1927, p.152). 教師が共に動き正しい動きを丁寧を示すことは、学習の効果や成長を導くことに大きく貢献されると考える。“舞踊の教育”と“舞踊による教育”の二側面を兼ね備えた教師の身体表現や言語表現による手立ては、児童の活力を最大限に探り出す思索であり、創造的な表現運動を体験させて多様な動きを見付けられる確認が示された。



## 2) 創造的な自己表現による仲間との関わり

結果、⑤友達との関わりに対して◎印は82.2%で最も多かった。⑥友達に伝えることでは61.9%、⑦友達の意見や動きを受入れることでは73.7%を示した。特に⑤に関して、男子が75.4%と女子が88.5%での比較にカイ二乗値は6.31を算出、女子が男子に比べて有意な差が認められた。⑦については、男子が66.7%と女子が80.3%でのカイ二乗値は6.31にて、女子の自己評価は有意に高かった。女子が仲間との協調できる傾向が示唆され、このクラスの女子は、豊かに関わり合うコミュニケーション能力が優位に立つことが示唆された。

## 3) 学びが広がる探求できる学習の確認

表5には、振り返りシートの自由記述をまとめた。書く学習<sup>13,14,15)</sup>では、「何ができたのか」や「何ができなかったのか」を客観的に見つめ直す力を培う有効な手立てとなる。3つの欄L、F、Tには、「何を理解したか、何ができたか、どのように使ったか」が示され、学習理解から認知プログラムとして活用していることで児童の特性が分かり、また学習が充実していくこと示唆される。何ができるようになったかの記述は、一人ひとりが探求する学習であったことが示され、児童の把握ができ、且つコミュニケーションに有効であったと考える。

学びが広がる学習と思われる事項を下記に示す。

i) Lの記述では、C1では、先ず『体でなんでも表現できると思った』の発見があった。新聞紙のイメージを真似て「なりきる」ことを試みたこと、「全身を使ったダイナミックな動き」はどうすればいいのか考えたことが書かれた。C2では、ポップコーンができる過程を「ひと流れ」の動きで、運動を組み合わせた「ひとまとまり」に表現する工夫が示された。C3では、洗濯物の観察から多様な動きに表現を凝らす作品づくりの思索が書かれた。「捻る」から多様な動きへの工夫が見えた。C4では、選択のテーマにこれ迄の学

習を総合的に捉えて工夫する内容が書かれた。以上、授業から学びに対する進化が示される記述であった。

ii) Fの記述では、C1では、仲間の動きを認めることや認める内容が多く書かれた。C2では、運動を組み合わせた動きの評価や仲間と関わり集団の動き捉えた感想が書かれた。特に『動き方には決まりがない』は、自由に伸び伸びと動く仲間の様子を捉えた感想と思われる。C3では、作品に対する自分の意見、どんな点がよかったのか、ここが面白い、こうした方がよいの意見が書かれ、見ることでの学びの成果や仲間と関わる状況が示された。C4では、よい動きを認め作品の構成についての意見が書かれた。『一人ひとりが～個性的』、『～本物みたい』、『皆で協力で～ダイナミック』の意見は、これまでの学習を総合的に捉えた感想である。仲間を捉えた記述からは、普段は知りえない互いの長所の発見しており、対話的な学習活動となったことを示唆する。

iii) Tの記述では、単元を通して、『もっと全身を動かす』、『表情をつけたい』、『もっといい動きをしたい』、『もっと指先から足先まで意識してできたらいいな』、『伝えることを頑張りたい』との学習への意欲が示された。創造的な自己表現を体験したことがよい刺激となり、自由に表現することには抵抗はなく、効果的な学習であったことを示唆する。即興による自由な表現に親しむ経験<sup>3,10,14,16)</sup>は、多様な動きの探求や表現したい気持ちを発展させる表現活動が広がる学習となり、ダンス教育の重要性<sup>7,8,14,15)</sup>の一部を構成する何かが、今回の実践研究によって明らかに示されたと思われる。また『5年になったら、今よりもっと～』には、「未来を志向する子の育成」である課題や目標に向かい学び続ける子の姿が見られた。身近な生活の題材を取り上げた表現運動は、季節の状況や動物の動きの観察、表現への探求心が培われていることが示された。特に、東日本大震災には、4学年の児童が何を感じて何を伝えたいのか関心が深い。

表6は、振り返りシートの7項目を自由記述で

触れたかを数字に、図1にはアルゴリズム化した。

単元を通して工夫した内容が52%を占めた。考えて、創り出すことを一人ひとりが力としたことが示唆される。「未来を志向する子の育成」に掲げられる体育領域のねらいは、工夫しようと学び続ける子、多様な動きを見つける子、そして運動の多様な関わりをみつける子であるが、これらのねらいに対しての児童の姿かと思われる。

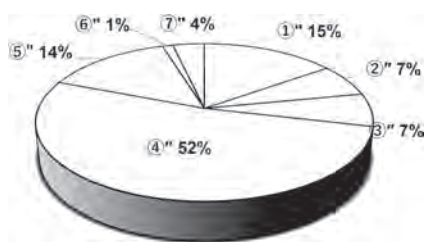


図1 振り返りによるアルゴリズム化分析

### 3. 単元「表現運動」での思索

教師と児童の声掛けと動きの掛け合いは、自由に表現を引き出す戦略であり活発な創作活動から表現力を高める思索と思われた。教師の手本、イメージを高める効果音、発表作品の創作や鑑賞は、教師の真骨頂として表現された。振り返りのシートは、表現運動を知ることであり、主体的・対話的で深い学びとなる学習活動に有効であったと思われる。

本実践での動きが出現できるようになること、次に自分の動きや仲間の動きを肯定的に受け止めること、そして総合的に丁寧な学びを捉える授業デザインは、自主的な探求心や好奇心を引き立たせた創造的な自己表現に繋がる実践授業であったと示唆する。



写真6 授業のまどめに注目する児童の様子

## V. 結論

本研究では、単元「表現運動」の思索から多様な動きを引き出す手立てにより創造的な自己表現に繋がる実践授業を検証することである。

1. 新学習指導要領での学習内容に掲げる運動の楽しさに触れることは重要な視点である。アンケート調査の結果、＜表現運動＞の動きが楽しかったことの評価が男女共に81.3%の結果は、楽しい経験が創造力や表現力を育む視点から、活動を学びに転換させる学習であったことを示唆する。＜授業＞での仲間と動きを見つけた評価には90.6%の評価を示し発見の学習が示された。＜動き＞では「全身をつかったダイナミックな動き」には90.6%の評価で、単元の課題に挑戦したことが示された。
2. 振り返りシートは、動きに関する項目①②③④と仲間との関わり⑤⑥⑦が検証された。よい動きの評価は、運動との多様な関わり方を見つける手引きであり、自主的な探求心や好奇心を引き立たせた創造的な自己表現に繋がる実践と示唆する。②表情の45.8%や③手足の意識での61.0%は低い結果ではあるも、舞踊による体育の表現的な運動としてダンスの本質を知る手立てになったと示唆する。
3. 単元「表現運動」を通して、教師の問い掛けから動きをつくり、よい動きへの評価によって学びの確認を増やして活力を最大限に探り出す思索は、多様な動きの表現を引き出す手立てが見られた。考える、決める、表現する授業で、自主的な探求心や好奇心を引き立たせる手解きに、創造的な自己表現の有効な実践の確認ができた。

## 謝辞

本研究に至るまで、元金沢大学 吉川京子教授のダンス教育に対する熱意があり実践研究ができたことに感謝を申し上げます。また金沢大学附属

小学校 盛一純平校長のご協力にお礼を申し上げます。

### 【参考・引用文献】

- 1) Bonwell C. Charles , James A. Eison and Jonatban D. Fife (Ed.) (1991) Active learning - Creative excitement in the classroom. George Washington University: Washington.
- 2) Gordon E. Robertson, Graham E. Caldwell, Joseph Hamill, Gary Kamen, and Saunders N. Whittlesey, and Loarn D. Robertson, Anne Rogers and Amanda S. Ewing (2004) Research methods in biomechanics. Human Kinetics: Champaign, IL, 1-52.
- 3) Isadora Duncan (1927) ISADORA DUNCAN MY LIFE. W. W. Norton & Company Ltd. p.152.
- 4) 金沢大学附属小学校 (平成 29 年)「よりよい未来を志向する子の育成」～決める授業をデザインする～. 平成 29 年研究紀要 第 71 集.
- 5) 金沢大学附属小学校 (平成 30 年)「よりよい未来を志向する子の育成」～決める授業をデザインする～. 平成 30 年研究紀要 第 72 集.
- 6) 金沢大学附属小学校 (令和元年)「よりよい未来を志向する子の育成」～未来へ生かす「決める」～. 令和元年研究紀要 第 73 集.
- 7) 松本千代栄 (2008) 松本千代栄選集 1: 舞踊論業. 明治図書出版株式会社 .p.143-145.
- 8) 松本千代栄 (2008) 松本千代栄選集 3: 人間発達と舞踊創作. 明治図書出版株式会社.
- 9) 文部科学省: <http://www.next.go.jp/> 引用  
文部科学省: 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」平成 28 年 12 月.  
[http://www.next.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm](http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm)  
(参照日: 令和 3 年 1 月 12 日)
- 10) 西洋子・本山益子・鈴木裕子・吉川京子 (2003) 「子ども・からだ・表現」- 豊かな保育内容のための理論と演習 -. 市村出版: 東京, p.123-129.
- 11) ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部・喜多村和之ほか訳 (1982) 大学教授法入門 - 大学教育の原理と方法 -. 玉川大学出版部: 東京. < University of London teaching methods unit (1976) Improving teaching in higher education. >
- 12) 小学校学習指導要領 (平成二十九年告示) 解説 体育編 (平成 30 年) 文部科学省東洋館出版社.
- 13) 山崎正枝 (2018) 大学授業におけるリズムダンスや表現運動での振り返りのアプローチに関する実践研究. 第 69 回日本体育学会, 予稿集, p.240.
- 14) 山崎正枝 (2019) 小学校教員養成体育科授業における深い学びへの実践研究. 北陸体育学会紀要 第 54 号, p.33 - 50.
- 15) 山崎正枝 (2020) グループワークによるエアロビクスが一人ひとりの達成感に及ぼす影響の一考察. 北陸スポーツ・体育学研究 第 1 号, p.25-35.
- 16) Yamazaki Masae (2020) A Study of Pedagogy to Bring Out Dance Movement in Teachers College. 2020 Yokohama Sport Conference. Quality Physical Education, ID 50674.

2021 年 9 月 15 日受付

2022 年 2 月 25 日受理